

分科会A2

実証実験：教員テレワーク環境 その必要性と効果

東京理科大学 教授 赤倉貴子

平成22年度「教育の情報化」推進フォーラム
2011年3月4日

活動の背景

- 2006年1月:「IT新改革戦略」
教員一人一台のコンピュータ
ネットワーク環境
IT基盤のサポート体制の整備等



学校のICT化

→ 2010年までに全ての公立学校等の教員に
一人一台のコンピュータを配備

学校—家庭—教育委員会の情報共有、情報活用



使う時間はあるのか → 使用できる環境の整備
安全性は保証されているのか → セキュリティポリシーの策定
→ ガイドラインの作成

こうした背景を受けて —CECでは—

- 2008年度...

「学校における情報セキュリティ基準(DSS)」
の策定 ← 学校現場における情報関連の事故低減

- 2009年度...

DSSを基準とした教員のIT環境のあり方
の検討 ← テレワーク環境は業務改善につながるか

- 2010年度...

実際の学校環境での実証実験

本年度の目的

実際に学校外でも安全に作業ができるIT環境が整備された場合

→教員はそれをどのように利用できるか
→どのような効果があるか

e.g. 日常の業務に関する負担感の軽減が見込まれるか

実験を行う

後ほど、尾島先生、松永先生がご報告

教員勤務実態調査

- 文部科学省：平成18年7月3日～12月17日
平成18年度「教員勤務実態調査」(2007.05)より

第1期：平成18年7月3日(月)～7月30日(日)

第2期：平成18年7月31日(月)～8月27日(日)

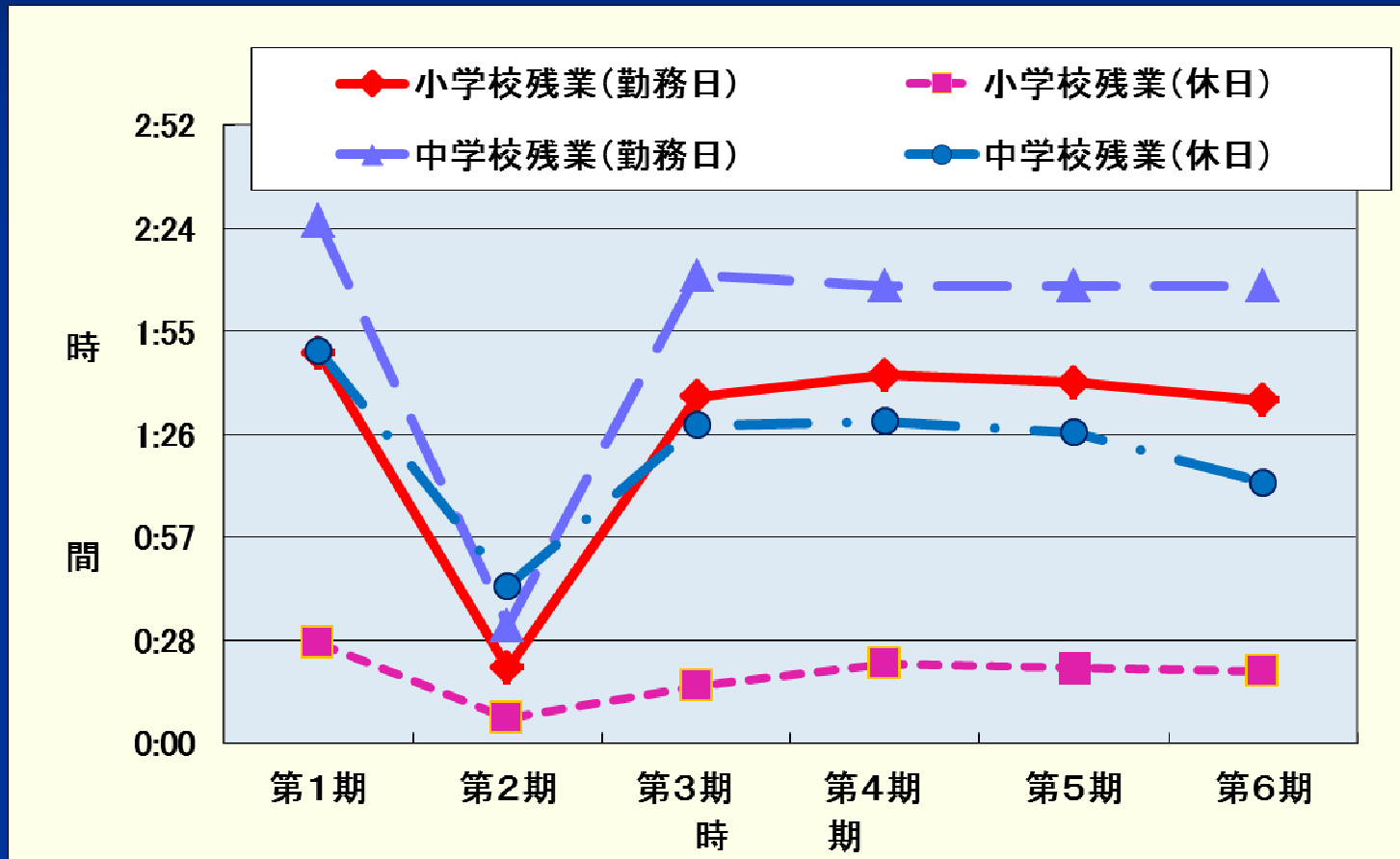
第3期：平成18年8月28日(月)～9月24日(日)

第4期：平成18年9月25日(月)～10月22日(日)

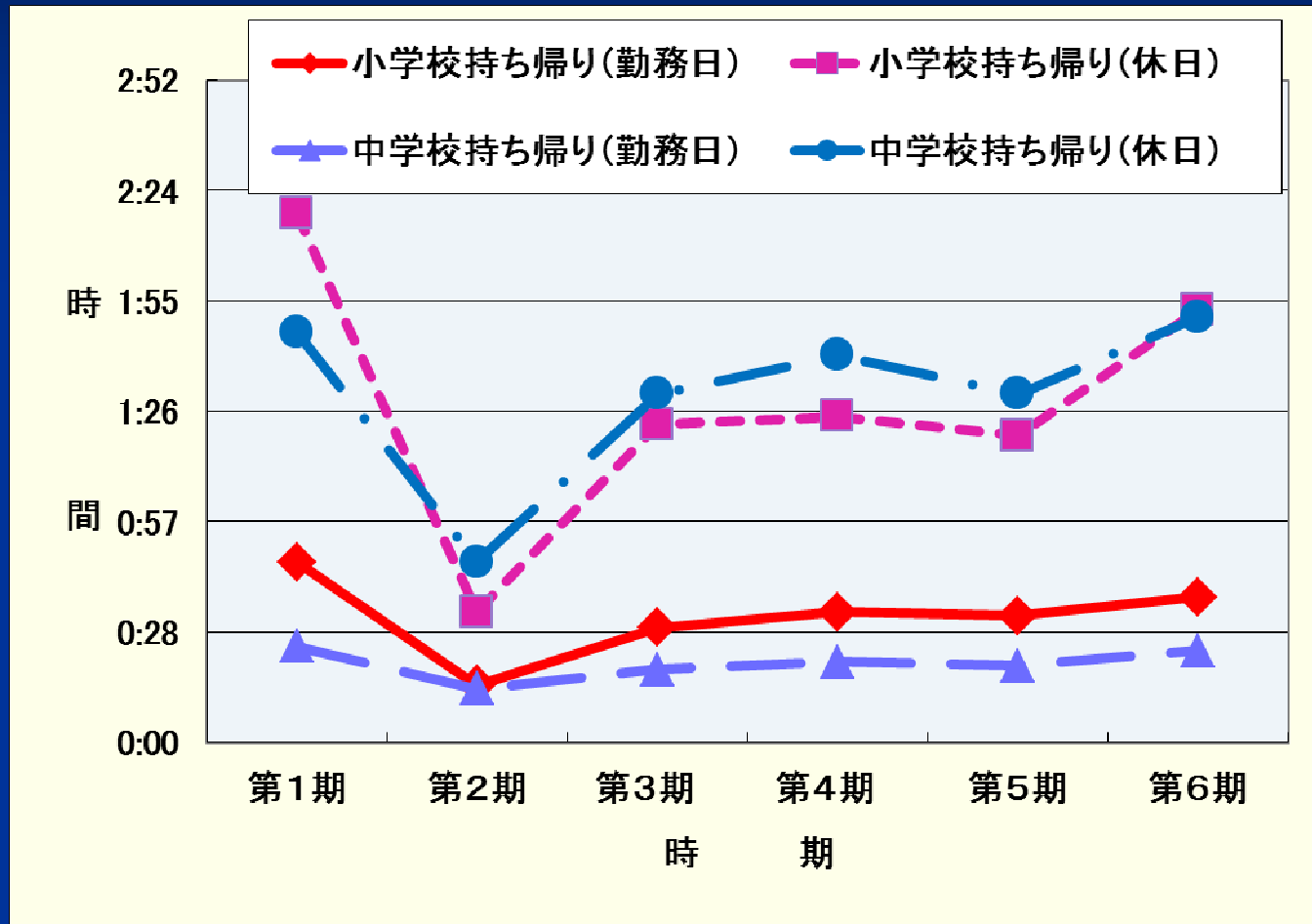
第5期：平成18年10月23日(月)～11月19日(日)

第6期：平成18年11月20日(月)～12月17日(日)

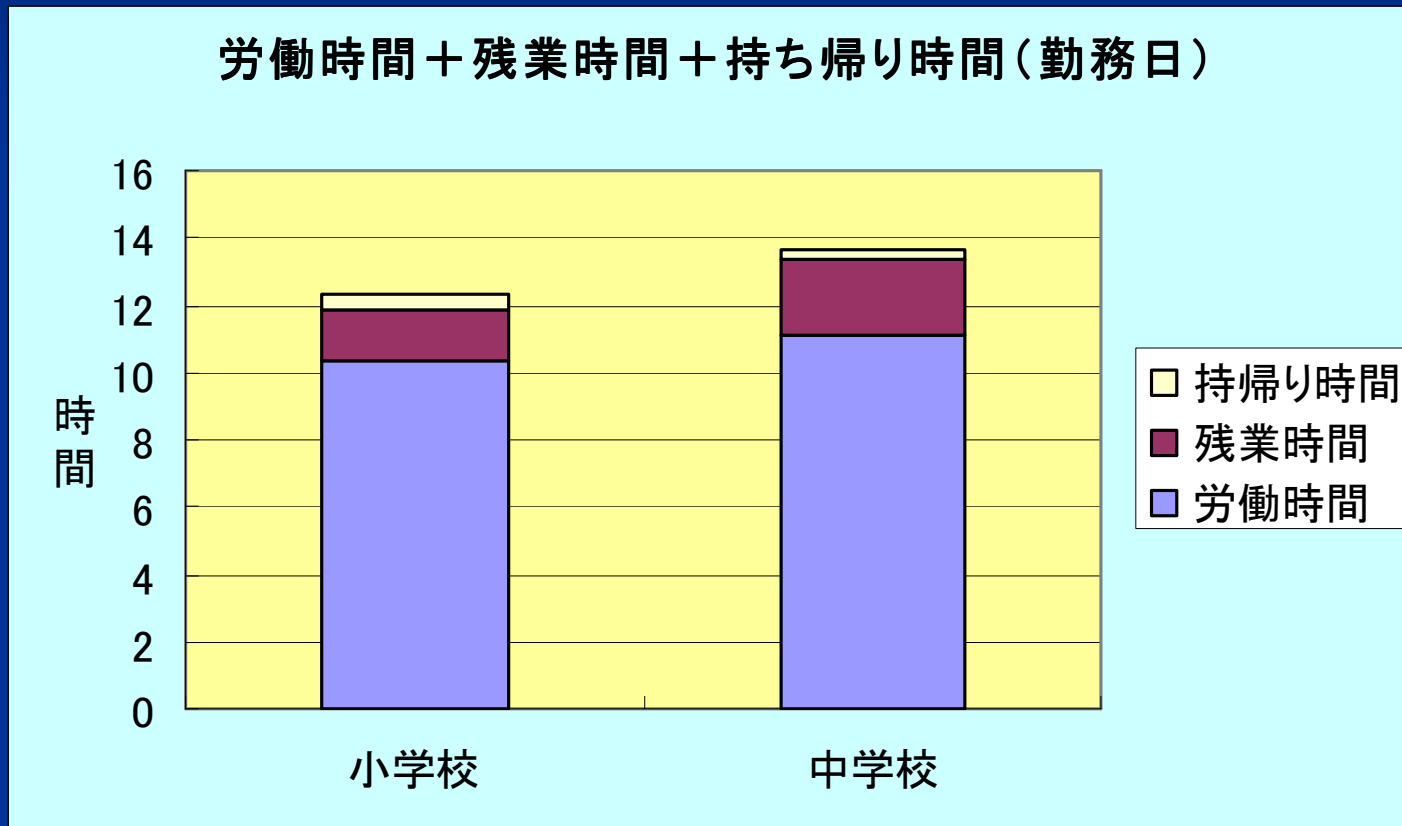
残業時間



持ち帰り時間

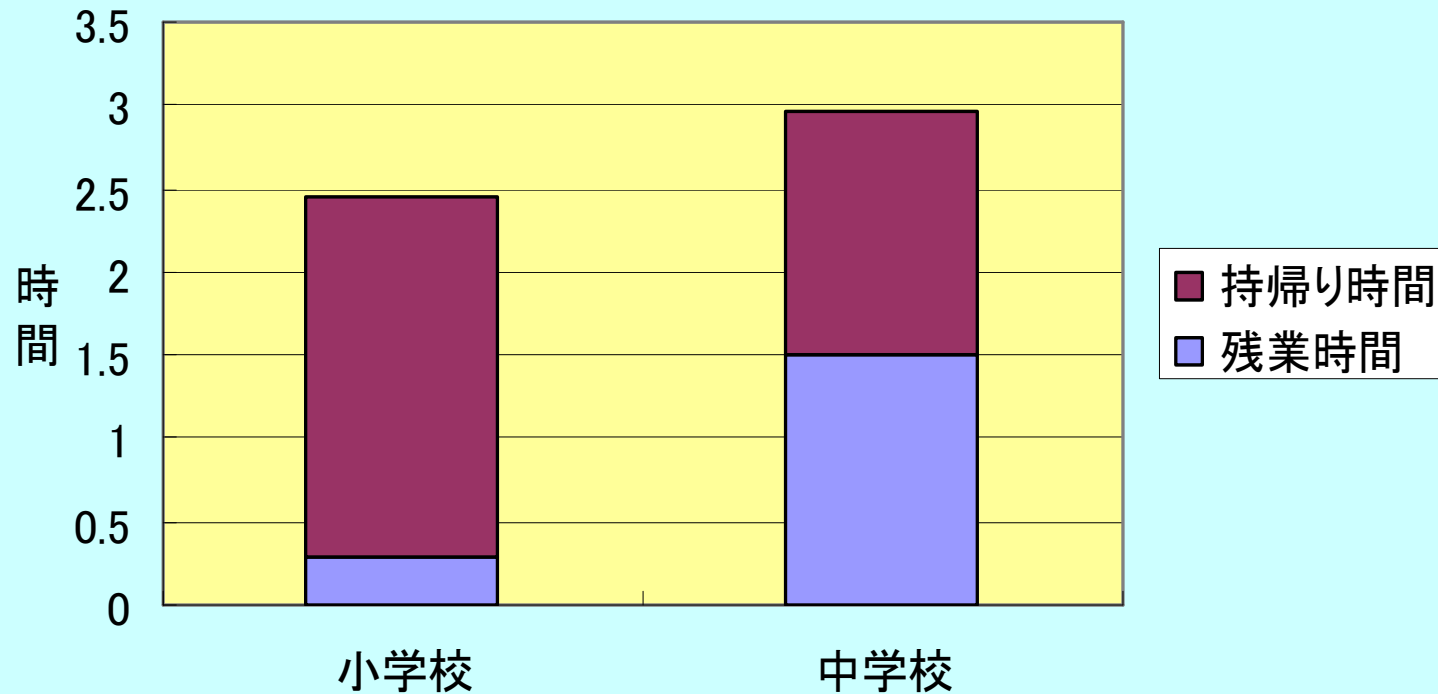


勤務日の労働時間等



休日の労働時間等

労働時間・残業時間・持ち帰り時間(休日)



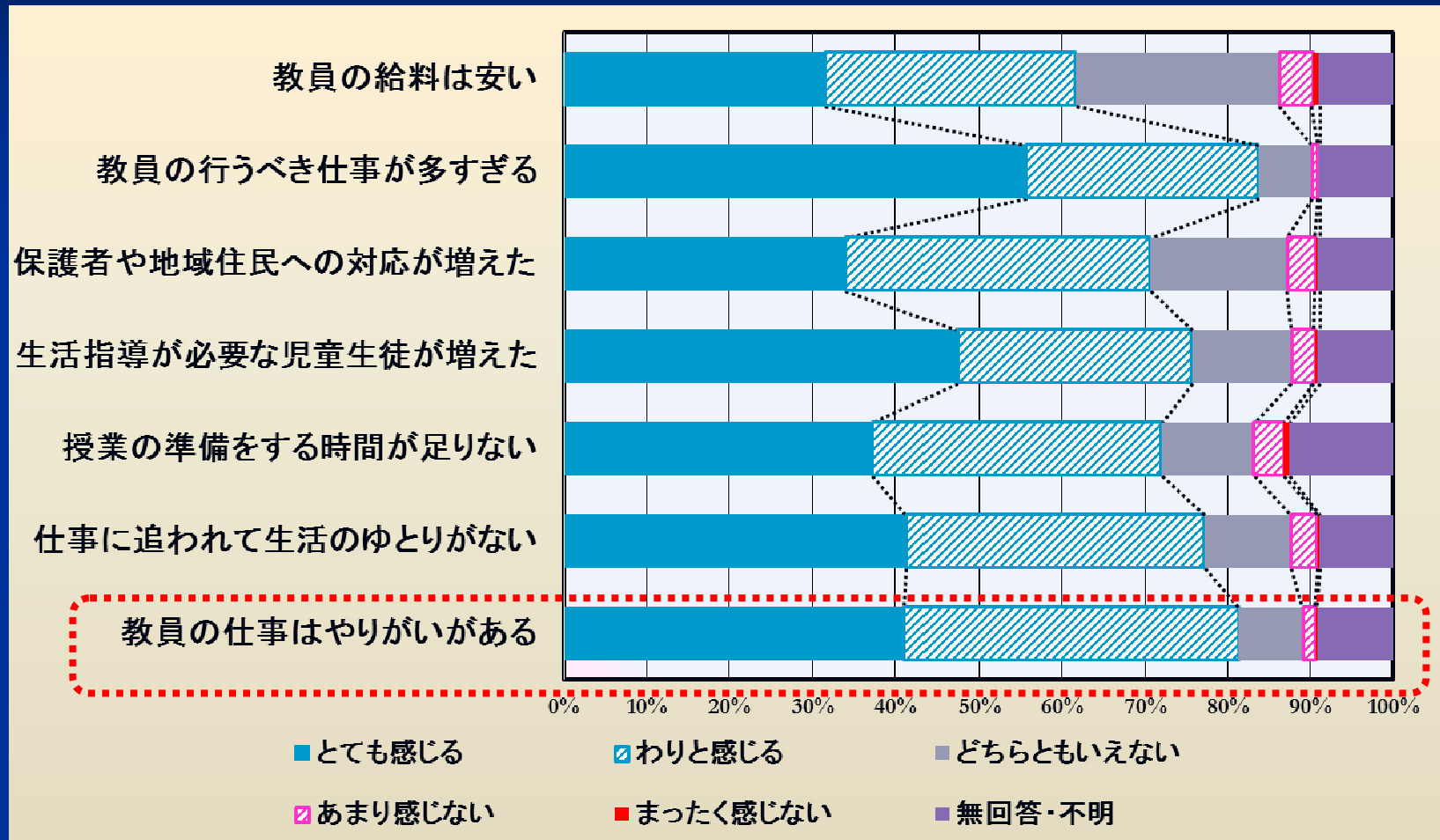
つまり、現実の状況は

- 「教員は授業に関する業務を次の日に持ち越せない事が多い」
- 「自宅に仕事を持ち帰っている教員も多い」

全国公立学校教頭会 「学校の組織運営の在り方を踏まえた教職調整額の見直し等に関する検討会議の意見発表」(2009.06)より

「残業時間」も「持ち帰り時間」も多い

教員の負担感



再び、現実の状況は

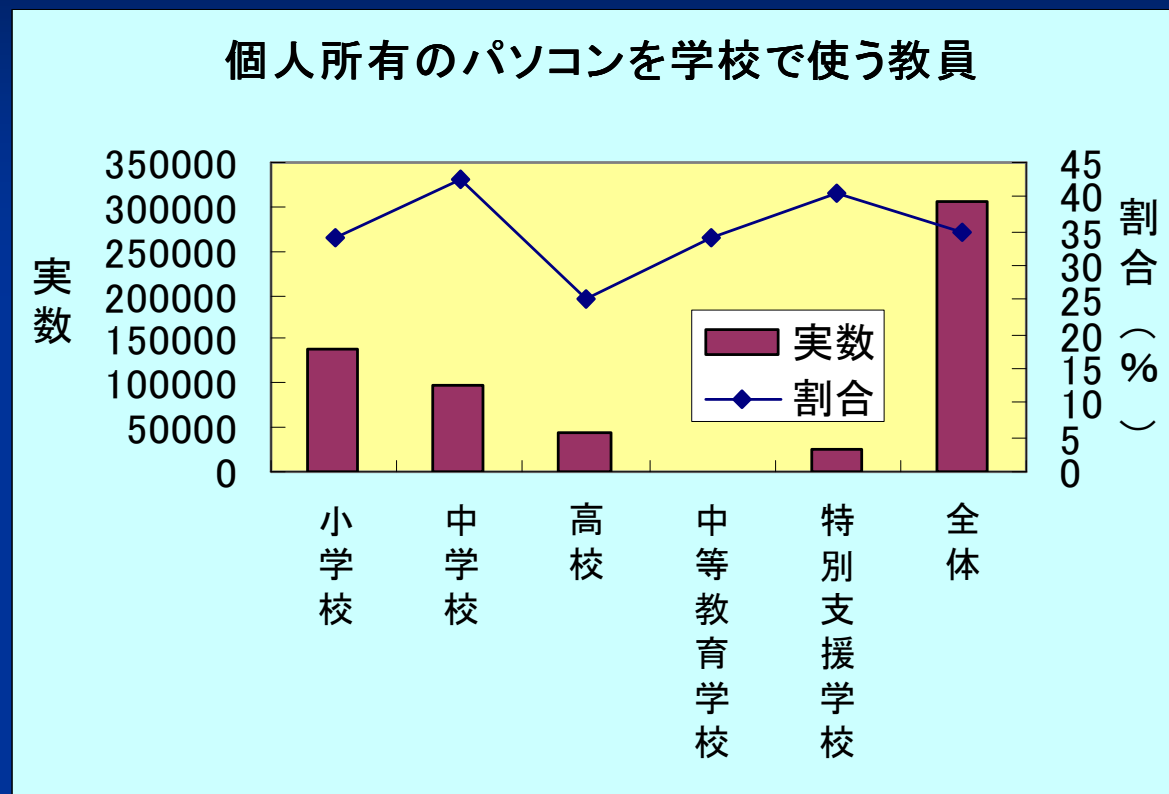
教師は、

授業、校務、課外活動、児童生徒指導など
多くの業務を抱えている

- 残業をしたり、仕事を持ち帰らざるを得ない状況
- 負担感

その一方で、「やりがい」を感じている

ところで、教員のパソコン使用状況は



文部科学省 平成20年度「学校における情報化の実態等に関する調査(2009.03)より

危惧すべき状況

忙しく、勤務時間内に終わらない仕事 → 残業や仕事の持ち帰り → 個人所有のパソコンの使用

セキュリティ上のリスク大

ここで、今一度、活動の背景

- 2006年1月:「IT新改革戦略」
教員一人一台のコンピュータ
ネットワーク環境
IT基盤のサポート体制の整備等



学校のICT化

→ 2010年までに全ての公立学校等の教員に
一人一台のコンピュータを配備

学校—家庭—教育委員会の情報共有、情報活用



使う時間はあるのか → 使用できる環境の整備
安全性は保証されているのか → セキュリティポリシーの策定
→ **ガイドラインの作成**

教師が学校外で仕事をするこ の意味・必要性

- 校外学習(宿泊学習等)時の状況を学校、保護者にリアルタイムで発信
- パンデミック時の対応 etc.



校外での仕事は必要
→ **セキュリティ対策が必須**

安全な環境の準備

- 学校外で利用するPCには、ソフト等はインストールしない(データは残さない)
- 学校外で利用するPCでは、ハードウェアキー(USBキー)を差し込むことによって、ネットワーククライアントとなる
- ハードウェアキーを差し込んだPCでは、ネットワークを介して画面情報を取得する

安全な環境が用意できた場合

- 教師の負担が増えるのであれば、意味がない

e.g.

- ・準備に余裕ができ、授業の質がアップするか
- ・児童・生徒、保護者と向き合う時間が増えるか
- ・教師自身の生活に余裕ができるか

実証実験

■ テレワーク環境の効果を実証する実験を実施

検証すること

- 学校外で利用するPCにソフト等のインストールが不要であることについて
- 時間的余裕ができたか（児童・生徒、保護者と向き合う時間、教師自身の余裕 etc.）
- 実際にテレワークを利用する場合の課題は何か

本年度の実証実験

- 倉敷市立粒江小学校(尾島先生)
 - 妙高市立妙高小学校(松永先生)
- アンケート(妙高市立妙高小学校、同新井中学校)

最終的評価(目標)

- 校外のPCで安全に作業のできるシステム環境の整備
 - 授業の準備に余裕ができ、授業の質がアップする
 - 児童・生徒、保護者と向き合う時間が増える
 - 教師自身の生活に余裕ができる

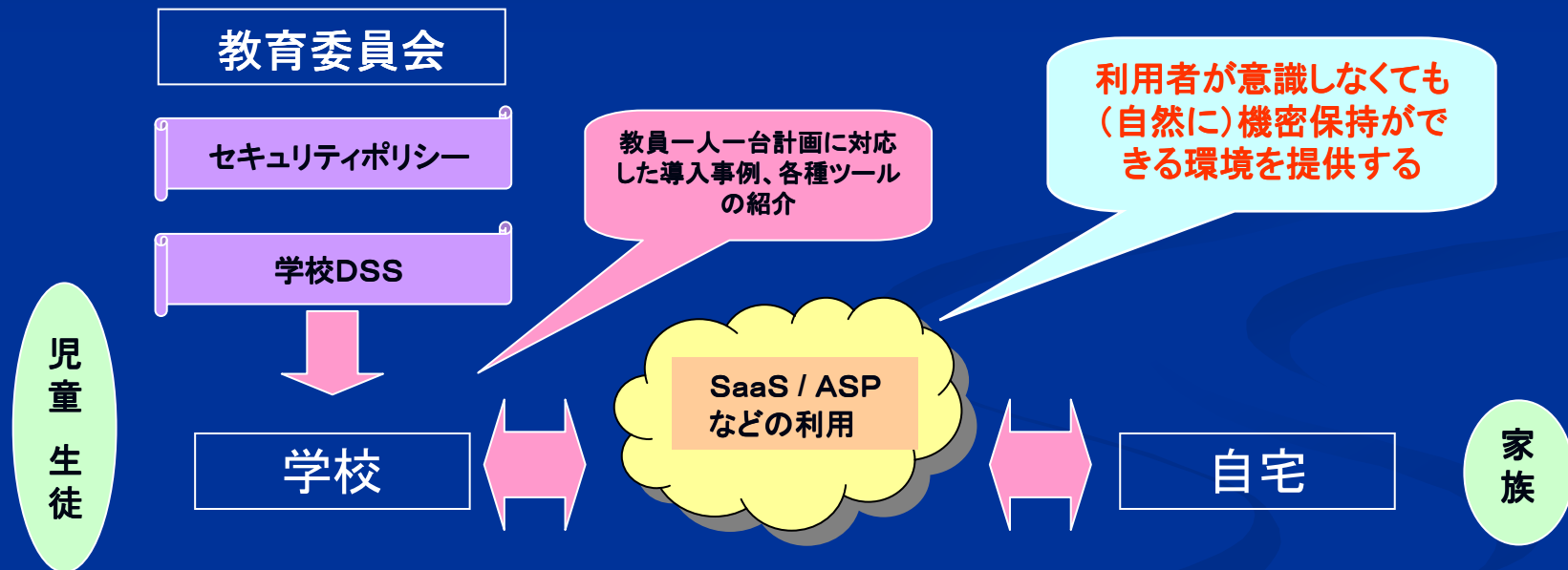


以下、附録

取り組んでいる課題

■ 教員IT環境の質的(機能的)な改善

➔ SaaS/ASPなどを利用したテレワーク機能採用の可能性を実証実験



- ◎ 準備に余裕ができ, 授業の質がアップする
- ◎ 児童・生徒, 家族と向き合う時間が増える